



- ④ セミナール大会開催
- ⑤ 交流の輪を広げよう
「海外語学研修」
- ⑥ キャンパス・スポット
「岐経祭2010」開催!
- ⑧ 輝け! アスリートたち
- ⑩ キャリア支援課だより
- ⑫ 教育最前線
「岐阜大学地域科学部、
岐阜市立女子短期大学と連携協定」
- ⑬ 研究室だより
- ⑭ キャンパス彩々
- ⑯ 教育実習報告会
体育サポーター報告会 福祉実習報告会

【特集】② 座談会

スポーツ経営学科の魅力と 今後の展望



座談会

スポーツ経営学科の魅力と今後の展望

本学にスポーツ経営学科が開設されて5年目を迎え、昨年には初めての卒業生を社会に送りだしました。この学科は、スポーツやレクリエーションの指導者や体育教員として、あるいはスポーツビジネスの担い手として活躍できる人材を育成する学科として、地域の小・中学校での体育や課外活動を学生がサポートする制度や、連携協定を結んでいる岐阜のプロサッカーチームである「FC岐阜」でのインターンシップ等の教育活動も実施しています。この度、スポーツ経営学科在学学生とその指導教員、そして現在注目されているFC岐阜の今西社長をまじえ、FC岐阜を切り口にスポーツ経営学科についての座談会を開催しました。



S P E C I A L T A B L E T A L K

大野 スポーツ経営学科も毎年多くの志願者があり、初めての卒業生が社会に出ていきました。今回、経営学部長やFC岐阜とゆかりのある学生諸君、FC岐阜の今西氏に、本学とFC岐阜を例に、教育について意見交換をさせていただきたくお集まりいただきました。そもそも、スポーツ経営学科を開設したねらいは何だったか紹介いただけますか。
野松 近年、高齢化が進み生涯スポーツへのみならず、広くスポーツへの関心が高まっています。こうした社会のニーズにどう対応するか、経営学部の持っている教育力・経営の学びのシステムをこのニーズにどう活かすか、という検討の中からスポーツ経営学科をたちあげました。スポーツの競技力向上、スポーツ産業の振興、地域社会に「スポーツ文化」を浸透させることが大きな目標です。スポーツ指導者を育成しながら、様々な場面で利用するスポーツ用品・イベントなどスポーツ産業を担う人材も育成しなければなりません。こうした考えに立つてスポーツ経営学科は教育を進めています。

大野 (学生達に)スポーツ経営学科を選んだ理由は何かですか。学んでよかったことは何ですか。

田中 将来的にスポーツに関わりたい希望があったから、スポーツを学べるスポーツ経営学科を選びました。学んでよかったことは、プロスポーツが地域になぜ必要かについて、FC岐阜の取り組みなどの現場を通してわかったことです。

山本 私は最初からFC岐阜について学びたいと思っていました。FC岐阜が掲げている「岐阜県を盛り上げる理念に共感しました。もとも他大学でスポーツビジネスを勉強していたので、スポーツビジネスが活かせる理由で選びました。学んでよかったことは、以前は独学で勉強していたのですが専門の先生に学んだことで、スポーツビジネスの基礎を学べたこと、また学んだことが活かされたことです。

大野 では次に今西氏にお尋ねします。本学のスポーツ経営学科の学生の印象と実際のスポーツ・社会の現場で求められる人材についてお聞かせください。社会にでて成長できる人はどのような人材ですか。

今西 山本君も田中君も、FC岐阜に関わるボランティア活動やインターンシップに積極的に参加し、FC岐阜をいろいろな側面から現状を見ていただいています。二人とも優秀で印象に残る学生ですね。また岐阜経済大学に対する全体の印象は、おとなしい学生が多いという印象です。今は企業で成功する人とスポーツで成功する人は似てきているように感じます。物事にひたむきに取り組む人、向き合っ取り組む人。何かに興味をもってそれをより深く知る、探求する。考える、「実行する」ことの動作を習慣づけることによって社会では大きな違いになっていきます。

大野 先生方にお尋ねしますが、スポーツ経営学を学ぶ意義は何だとお考えですか。

野松 経営学を学び、スポーツを学び、マネジメントを学ぶ、実体験することで人間性を育てる意義があると思います。

今西 今日のスポーツは、あつてもなくてもいいものから、必要欠くべからざるものになっています。スポーツは①自分がプレイして楽しむことができる②見て楽しむことができる③スポーツの機会に恵まれない人をサポートする④3つの立場の人が交流する機会をもつことが必要です。今後の日本のことを勉強する中で、スポーツを通じて現実の社会に起きている問題に関わっていくことにより、様々なことに貢献できる可能性があります。

大野 今後のスポーツ経営学科の学生に望むことについてお話をください。

野松 スポーツ経営学科ができてから、**目的意識を持って入学する学生がより増えてきた**ように思います。他大学でもスポーツマネジメントもしくは健康にちなんだ学科が増えてきているため、差別化も含めて、魅力を感じるようにすることが課題であるように感じます。「地域スポーツマネジャー育成プログラム」の幅を広げて、スポーツ経営学科のほとんどの学生が、このプログラムを終了し、資格を取得し、地域貢献するという意欲をもって欲しいと考えています。

今西 地方に行けば行くほど、高齢化、過疎化が進んでいます。高齢者とふれあうなど、大学にはより地域と関わりが持てる授業を増やしてほしいです！学生達には地域の人たちが支えあっている中に、積極的に関与してほしいと思っています。学生時代しかできないことを経験してほしいと思います。例えば、友達との交流を深める、スポーツに専念する、本を読んで知識を蓄えるなど、自分が大学で何を学んできたか、経験してきたかをはっきり言えるようになってほしいと思います。また同時に、企業は社会での即戦力を求めています。社会に必要な①企画力、創造力②コミュニケーション能力③人と接する能力を身につけるようなカリキュラムが必要であり、学生はそれらに取り組みしてほしいと思います。

大野 学生の皆さんには今後の抱負をお願いします。

田中 「プロスポーツクラブのステークホルダー」について研究しようと考えています。昨今、スポーツクラブの経営が苦しい状況であることが明らかにできています。僕は、クラブと自治体が協力できていないことが理由の一つであると考えています。そのことをより深く探求し、クラブを通してのスポーツ振興ができる可能性を探っていきたいと考えています。社会にでるとひとつのことに深く突っ込んだ勉強はできませんので、大学院へ進学し有意義に過ごしたいと思っています。

山本 現在、「スポーツボランティア」をテーマとして卒業論文を作成しています。ボランティアの人は報酬もないのに、ただ「好きだから」という理由だけでどうして何年も続けられるのかを探求したく、大学院に進学して研究しようと思っています。

大野 それでは最後に現在、スポーツ経営学科で学んでいる学生、これからスポーツを学ぼうとしている学生に対してメッセージをお願いします。



今西 和男さん

株式会社岐阜フットボールクラブ
代表取締役社長



野松 敏雄教授

本学経営学部長



大野 貴司准教授

本学経営学部



山本 達也さん(野松ゼミ)

経営学部スポーツ経営学科4年
(岐阜県 関高校出身)
進学先: 筑波大学大学院
人間総合科学研究科体育学専攻



田中 正人さん(大野ゼミ)

経営学部スポーツ経営学科4年
(茨城県 日立商業高校出身)
進学先: 神奈川大学大学院
人間科学研究科

G I F U K E I Z A I U N I V E R S I T Y

スポーツ経営学科の主な就職先(第一期生)

《製造業》

名古屋製酪(株)(めいらくグループ)、サンラリーグループ、ラブリークイーン(株)、三甲(株)、森松工業(株)、コムコ(株)、つるや(株)

《卸売業》

中北薬品(株)、ジーマ(株)、トヨタ部品静岡共販(株)、(株)東海クボタ

《小売業》

(株)G-7ホールディングス、(株)光通信、ゲンキー(株)、(株)カインズ、(株)ハロー、(株)平和堂、(株)エディオン-EAST、(株)ユタカファーマシー、(株)杏林堂薬局

《金融・保険業》

(株)大垣共立銀行、(株)福邦銀行、静銀リース(株)、大垣信用金庫、関信用金庫、八幡信用金庫、(株)かんば生命保険、岐阜県信用農業共同組合連合会、遠州中央農業共同組合(JA遠州中央)、沖縄県農業共同組合、浜名湖養魚漁業共同組合

《サービス業》

(株)ニチイ学館、ガンゼスポーツ(株)、(株)コナミスポーツ&ライフ、(株)アクロス、(株)コパン、(株)ルネサンス、ホテルグリーンプラザ安達事業グループ

《公務員・教員・各種団体等》

岐阜県町村会、警視庁、岐阜県警察、滋賀県警察本部、大阪府警察官、岐阜県教員、愛知県教員、兵庫県教員、京都府教員、滋賀県教員、静岡県教員、三重県教員、島根県教員、和歌山県教員、NPO法人西濃学園、財団法人岐阜県体育協会、財団法人岐阜県イベント・スポーツ振興事業団、NPO法人アメティエ・スポーツクラブ、大垣消防組合、大津市消防本部、中濃消防組合消防本部、三重紀北消防組合

《旅客・運輸業》

九州旅客鉄道(株)、西濃運輸(株)、濃飛西濃運輸(株)、(株)日本陸送

《その他》

(株)未永製作所、石友ホーム(株)、給湯システム(株)

野松 これからの社会においては、スポーツは欠かせないものになりつつあります。スポーツから学ぶことも非常に多く、スポーツによって健康や体力向上のみならず、「心」も豊かになります。また、スポーツは「する人・見る人・支える人」のつながりの中で成り立っています。こうした人々の「輪」は実は「マネジメントの力」でもありません。こうした「マネジメントの力を持った学生を育てる」ことによって「スポーツを楽しむ地域社会」を作りたいと希望しています。そういう自覚をもって学んでほしいと思います。

田中 スポーツを「する」、「見る」、「支える」といったような多面的な視点からスポーツを見てほしいと思っています。

山本 どんなことも楽しんで、前向きに勉強やスポーツに取り組みてください。

今西 スポーツを通じた交流をして、自分自身の人間的な成長を図ってほしいと思います。世の中の仕事は必ず相手があつて成り立っています。相手に満足を与えることは何かを考えると、相手をリスバクト(尊敬)する、正しいマナーで接することは、芸術やスポーツであればより自然な形で学ぶことができます。相手をリスバクトする精神に磨きをかけてほしいと思います。

大野 本日は、スポーツ経営学科に対する様々な積極的な意見を聞くことができました。スポーツの持つ可能性を伝える、社会に広める、担う、スポーツ経営学を学んでいる学生はそれができます。これからのスポーツ経営学科に期待が高まります。本日はありがとうございました。

優秀賞



小倉ゼミD 私立大学の経営分析

大会に際し、支え、助けてくださった皆様には心から感謝しています。



岸ゼミC アスリートにおける練習日誌実践状況とその効果

素晴らしい賞を受賞でき、とてもうれしく思います。



安田ゼミ メディアプロデュースの理論と実践

私たちの製作した作品が評価され、とても光栄に思います。



神谷ゼミ 大垣市における中学校運動会の実態調査

研究の成果を発揮し、優秀賞を取ることができてうれしいです。



中川ゼミA 2007年都道府県別インターハイ予選の短距離の成績とその要因

いい経験になりました。ありがとうございました。

ゼミナール大会に参加した皆さんには、今回の調査や研究を通して学んだことをこれからの大学生活に活かして欲しいと思います。そして、1、2年生の皆さんには発表を聴いて学んだことや、得た知識などを無駄にせず、これからのゼミ研究などで活かして欲しいです。

ゼミナール大会は、まだまだ学生の意欲、関心が低いと今回の大会を通じて感じました。今後は学生のゼミナール大会に対する意欲、関心が高まることを強く願い、そしてそれを実行委員の課題とし、今後のゼミナール大会がより本学の伝統ある行事となることを期待したいと思います。



教員と学生が一つになって燃えた 学内ゼミナール大会開催

12月1日(水)、第38回岐阜経済大学ゼミナール大会を開催しました。ゼミナール大会とは、それぞれのゼミごとにテーマをもち、協力して調査・研究を行い、まとめあげた成果を発表する大会です。今年度は、21演習37チームにより、様々なテーマでの発表が行われました。

学生の発表後は、指導教員とは別の3名の教員による審査があり、5会場それぞれで優秀賞・奨励賞・敢闘賞の各賞が贈られました。

発表した内容は最終的に「学生調査」として1冊にまとめられ、大学の学びの集大成として結実します。

参加ゼミ名	テーマ
高橋(信)ゼミA	普天間基地問題に見るメディアの信憑性
敢闘賞 鈴木ゼミB	都市と農村の持続的な交流の実現を目指して
中川ゼミB	全世界歴史映画の興行収入・利益からみたヒットする映画の傾向と要因
奨励賞 池永ゼミ	排出削減が経済を変える
優秀賞 小倉ゼミD	私立大学の経営分析
井戸ゼミ	対抗戦形式の株取引シミュレーションシステムの開発
竹内ゼミA	データから見た住みやすい県は?
高橋(正)ゼミ	青少年スポーツの現状
新家ゼミ	ユニバーサルデザインはバリアフリーを超えるか
高橋(勉)ゼミ	国際通貨体制と経済危機
奨励賞 大野ゼミB	共創型スポーツシステムの提案 一岐阜県の取り組みを事例として
鈴木ゼミC	地域づくり型生涯学習に向けて
岩坂ゼミ	エネルギーシフトと次世代自動車
優秀賞 岸ゼミC	アスリートにおける練習日誌実践状況とその効果
敢闘賞 中川ゼミC	2010年東海学生男子バスケットボール大会の成績とその要因
敢闘賞 鈴木ゼミA	電気自動車の普及に向けて
小倉ゼミA	ヤマダ電機の未来 一経営戦略の転換
奨励賞 森ゼミ	東側水路の環境に配慮した川づくり
中川ゼミD	3つのショックが及ぼした日本の鉱工業・製造工業への影響 -ブラックマンデー・パブル崩壊・リーマンショック-
佐藤(俊)ゼミ	農協の信用事業の現状について
野松ゼミ	中小企業の魅力
優秀賞 神谷ゼミ	大垣市における中学校運動会の実態調査
竹内ゼミC	若年層欲求比較調査
敢闘賞 岸ゼミA	種目別にみたパーソナリティ特性
石原ゼミ	EUの課題と現状
奨励賞 大野ゼミA	エンターテインメントの経営 -スポーツと音楽を中心に-
敢闘賞 鈴木ゼミD	防犯コミュニティの必要性
小倉ゼミB	日本の空港のハブ化の可能性
優秀賞 安田ゼミ	メディアプロデュースの理論と実践
岸ゼミB	陸上競技における試合前と試合後のコンディションの違い
優秀賞 中川ゼミA	2007年都道府県別インターハイ予選の短距離の成績とその要因
敢闘賞 竹内ゼミB	社会経済統計データとスポーツの実力比較
奨励賞 樋下田ゼミ	ソーシャル・キャピタルを地域づくりに活用する調査研究 -二つの事例から-
高橋(信)ゼミB	孫正義の経営者像・人物像
鈴木ゼミE	若者の性と生 新たな試みと情報発信
福地ゼミ	小学生を対象とした遊びとレクリエーションの支援活動と意識調査
敢闘賞 小倉ゼミC	プロスポーツクラブの有り方



学内ゼミナール大会を終えて
大会運営委員長 平光 加奈さん
スポーツ経営学科3年(愛知県立至学館高校出身)

12月1日(水)に、本学にて学内ゼミナール大会が開催されました。今年で第38回目を迎えるこの大会は、ゼミのメンバーで調査・研究してきたことを発表するもので、岐阜経済大学においてとても伝統ある行事です。また、ゼミの仲間と協力しながら調査・研究・準備をすることで、仲間との絆をより一層深めることの出来る行事でもあります。今回は21ゼミ、37チームの参加があり、様々なテーマの発表がありました。どのチームもたくさん時間をかけて調査・研究を行っていました。なかには、夜遅くまで大学に残り、休みの日にも大学に来て準備を行っているチームもありました。

私にとってゼミナール大会は今回で2度目の参加となり、とても思い入れのある行事となりました。また、今回は実行委員長としての参加でもあり、立候補はしたもののゼミナール大会を無事に終えることが出来るのかという不安もすぐありました。しかし、協力してくださった教務課の先生方や渡辺先生、加藤先生、設営や司会などの運営に携わってくださった学生の皆さんのおかげで今年も無事にゼミナール大会を終えることができました。本当にありがとうございました。

多くの人と関わることの面白さを味わって

原 聖さん

スポーツ経営学科3年(愛知県 至学館高校出身)

上海财经大学での語学研修を通して、語学の習得はもちろん、授業の空き時間を活用して上海万博など市内の観光もできたので、とても充実した1ヶ月間でした。

私が今回、語学研修に参加しようと思ったきっかけは、本場で外国語を学びたいと思ったからです。そして、その中でも中国語を学ぼうと思ったのは、日本と中国はとても近い位置にあり、さらに中国は今、急成長している国なのでこれからは中国語の活用が増えると思ったからです。

現地では、様々な国の生徒と共に授業を受けました。主に会話や発音練習が中心の授業でした。周りみんなが上達したいという意識の高い人たちがばかりでしたので、積極的に発音練習ができる雰囲気での授業でした。また、先生も日本語は一切話

されませんが、身振り手振りで、一生懸命に教えてくださいださるとても熱心な先生でした。

今年開催されていた万博の会場内は広く、とても1日では回りきれないほどの大きさと、たくさんの人々と賑わっていました。

出発前は、無事に1ヶ月間過ごせるか不安でしたが語学研修に参加して良かったです。たった1カ月の海外での生活ではペラペラになるまでは上達できないけれど、これをきっかけにもっともっと勉強して、多くの人々と話ができるようになりたいと思いました。そして、今回の体験を通して、今まで全く関わったことのない人と関わることの面白さを味わったので、この経験を今後にも活かしていきたいと思いました。



CHINA HAWAII

自分の殻を一つ破った貴重な体験

寺木 貴則さん

経済学科2年(福井県 敦賀高校出身)

私は夏休みを使って3週間の短期プログラムという形でアメリカ、ハワイにあるハワイ大学に留学しました。

正直この語学研修に参加する前はあまり気乗りもせず一度も海外に行ったことの無い私はとても不安でした。しかし私が在籍している「企業人育成コース」では必修課程だったので仕方ないなあという気持ちで参加することにしました。

ところが、アメリカに実際行ってみるとすぐに迷いや不安というのは消えました。ハワイ大学の人はとても優しく初対面から、かなりフランクな感じで話をしてくれて、私としてはとても嬉しい、気が楽になりました。

ハワイ大学には岐阜経済大学から私を含めて6人の学生が留学をしました。他にも私達が参加したこの留学プログラムには色々な大学からの学生、社会人の方や高校生、さらに日本以外の国か

らと多種多様な方が参加していました。

この3週間の中では、英語での授業以外にも遠足で動物園に行ったり、山に登ったり色々なレクリエーションもあってたくさんのお友達も出来ました。現地の方も仲良くなり、授業が無い休日は海に連れていってもらったりとても充実した時間を過ごすことが出来ました。

私はこの機会を通して自分の殻を一つ破ることができ、またとても貴重な体験になったと思っています。日本人というのは他国に比べるととても内気で中にもりがちな傾向があるので、一度海外を訪れて、新たな世界を体験するという意味では、このプログラムはとてもそれに適していると思います。

一度行ってみると必ず良い体験になると思います。皆さんも一度参加してみたいかでしょうか?



自分が成長できるチャンス

長谷川 綾桂さん

情報メディア学科2年(岐阜県 岐阜総合学園高校出身)

私が海外語学研修に参加しようと思ったきっかけは、まず1年次の時のフランス語の授業を受けたことと、元々フランスやヨーロッパの文化などに興味があったからでした。

ブルゴーニュ大学での授業は、自分のレベルに合ったクラスに分けられ、授業内容は、文法からフランスの文化、グループでも会話・リスニングなど様々でした。担当の先生は、すべてフランス人でフランス語しか話しません。授業には文法用語など普段は使われないようなフランス語も出てきて、授業についていけるか初めは心配でしたが、授業を受けている間にフランス語の発音にも聞き慣れて内容も少しずつ理解できるようになっていきました。

寮には同じプログラムを受ける生徒や、ブルゴーニュ大学に長期で留学している人など日本人もいましたし、アジアからアメリカ、ヨーロッパまで様々な

国の人が滞在していました。そこで出会った方々と仲良くなっていろいろな話をしたり、他の国の料理を食べさせてもらったりとても楽しい交流ができました。

大学のあるブルゴーニュ地方のディジョンは、中世に建てられた教会や宮殿などがあり、街並みがとても美しいです。また、旧ブルゴーニュ侯爵が残した美術品を扱う美術館、考古学博物館など美術館には無料で入れたので、授業が終わると街へ出てディジョンの街を巡ることもありました。

フランスでの3週間はとても貴重な経験ができました。大学生生活が1年過ぎた時で、何か新しいことに挑戦したいという気持ちが大きくなってきた時に、語学研修に行ったことでたくさん刺激をうけることができました。自分が成長するチャンスにもなったので、参加できて良かったです。



FRANCE



キャンパス・スポット
CampusSpot

岐経祭2010開催!!

参加者みんなが～ENJOY～した2日間!



企画・
運営部長

やってやった

中島 慎一
 経済学科2年
 三重県 紀南高校出身

様々な学園祭に行った。そこでも色々やったけれど、岐経の学祭が一番だと知っているから最高に良いものになるようやったぜ!



備品
部長

岐経祭を終えて…

後藤 陽介
 経済学科2年
 岐阜県 山県高校出身

今年も去年通り大変でしたが、とても盛り上がった岐経祭にすることができました。ありがとうございました。



会計・パンフ
メイン部長
副委員長

ありがとう
ございました

大倉 義弘
 情報メディア学科2年
 岐阜県 海津明誠高校出身

皆様!! 岐経祭を楽しんで頂けましたか?! 色々ありましたが今年も無事終えることができました!



装飾
部長

最高の学園祭
でした

鳥居 大峻
 経済学科2年
 福井県 敦賀高校出身

今年の学園祭も無事に終えることができました。準備は大変でしたが、終わってみれば、最高の学園祭でした。



広報
部長

二年目の学祭を
終えてみて

清水 賢
 経済学科2年
 岐阜県 郡上北高校出身

去年よりも成果が出たけれど、課題も多く残ったので来年に向けて頑張りたいです。

岐経祭実行委員
メンバーの
ひとつこと





意地や
プライドを
かけて勝負!



やったね!!



硬式野球部

特別賞

(来場者の投票による)

優秀 Tent む

大繁盛!!



バドミントン部



Mr. Potato head

みんなで
ハノリ!

もりながってます! サイコー!



岐経祭実行委員長

杉谷 辰也さん

情報メディア学科3年
(岐阜県 清翔高校出身)

今年の岐経祭は
11月20日(土)、21
日(日)に開催され
ました。テーマを

来場者の皆様が楽しむことを競い
合つような学園祭にしたいとい
思ひから「Enjoy」を楽しん
だもん勝ち」にしました。当日
は2日間とも好天に恵まれ、毎年
好評である無料野外コンサートや
岐経祭の目玉であるステージ企画
等も盛り上がる事ができました。
満身創痍になりながらも無事に
終わりました。岐経祭に関わった
皆さんの協力がなければ成功でき
なかつたと思うくらい感謝してい
ます。学祭に携わった皆さんや当日
ご来場くださったお客様方全員に
感謝をしています。本当にありが
とございました!



装飾
補佐

長かった...

藤尾 敏久

情報メディア学科1年
岐阜県 不破高校出身

準備期間の約3ヶ月はと
ても長く、寒かったです。
でも学園祭当日はと
ても充実した2日間でした。



装飾
補佐

学園祭実行委員

柴沼 健太

経済学科1年
岐阜県 不破高校出身

初めての経験でわから
ないことが沢山あり、作
業も大変だったけど最
後までやり遂げることが
できてよかった。



装飾補佐、
メイン補佐

初めての学園祭

林 悠介

経済学科1年
岐阜県 岐阜農林高校出身

大学生になって初めて
の学園祭はとても大変
でした。それでもみな
で協力して作ることは楽
しかったです。



装飾
補佐

ENJOY!!

寒河江 智己

経済学科2年
岐阜県 関高校出身

関市から通っているの
で前日の準備はかなり
大変でしたが、今年の
テーマ「ENJOY」を達
成できました。



ケーター
リング

達成!!

加納 朋果

臨床福祉コミュニティ学科2年
岐阜県 大垣養老高校出身

事前準備はとても大変
でした。けれど、みな
で声をかけ合い、最後
はギャッツで盛り上が
れて良かったです☆



ケーター
リング

ENJOY?!

本間 詩織

臨床福祉コミュニティ学科2年
新潟県 羽茂高校出身

お疲れ様です。とりあ
えず皆よく頑張りました。
去年より忙しくて大変
でしたが無事に終わ
って良かったです。



ボート部創部10周年

創部10年に感謝

ボート部ゼネラルマネージャー
岩崎 洋三

創部6年目の2006年6月、全日本選手権大会・男子ダブルスカルで、初優勝することが出来ました。大学ボート部が創部10年以内に優勝することは初めてという快挙を成し遂げました。ご支援いただいた多くのボート関係者・大学関係者の方々に、感謝一杯であります。多くの方々から、岐阜県の大学が、男子のスポーツ競技で、日本一・金メダルを獲得するとは夢のようだと、喜んでいただきました。

20世紀の終わる頃、2005年にアジア初の世界ボート選手権大会・岐阜県・長良川での開催が決まりました。開催県である岐阜県に、大学ボート部を作ろうとの気運がたかまり、当時の田口義嘉壽理事長の英断で、本学にボート部を設立することが決定しました。小倉正紀理事長室長(当時の奔走奮闘で八百津高校から4名のボート部員の入部がさまり、2000年12月に、全日本で優勝する事を目標とした、本学ボート部が誕生しました。

創部当時は、すべて借りもの。練習場は、川辺、中川、愛知池等のジブシー活動、多くのボート愛好者の協力を得て、2001年3月から練習を開始しました。デビュー戦は、2001年6月開催の第46回中日本レガッタ、全日本は、同年8月開催の第28回全日本大学選手権大会に出場して、全国に岐阜経済大学体育会ボート部の誕生をアピールしました。

次の10年は、「全日本」の付くレガッタで、安定した形で入賞し、常時メダル獲得ができるボート部作りを、多くの、ご支援、ご指導、ご協力をいただいている皆様に、感謝とお礼の気持ちを、「優勝」「勝利」で表していきたいです。感謝。感謝。

10年間を振り返って

現 西濃運輸勤務(福井県 美方高校出身)
二代目主将 三谷 浩一

創部10周年おめでとうございます。今、改めて10年という年月の長さ、歴史の重みを感じています。

私が入部した当時は、練習場も決まっておらず、水上に出るのも名古屋や川辺を行ったり来たり、食事も外食や練習後に自分達で作ったりと、部としての仕組みがまだないような状況でした。そんな中で、練習場所の確保、トレーニング法や栄養学を学びメニューを考案したりと、様々な問題を周りの人達に支えられ乗り越えてきました。

よく部員同士で揉め、苦しい時期も長かったです。部を一から創り上げるといふ事に携われ、中身の濃い大学生活を送っていた気がします。そんな当事を振り返ると、立派な合宿所が出来たなんて夢のようです。是非、現在の環境を最大限に活かし、私達が創れなかった『表彰台の常連となるような強いボート部』を作り上げてください。そしていつかは、インカレ総合優勝を…今後の活躍を期待しています。

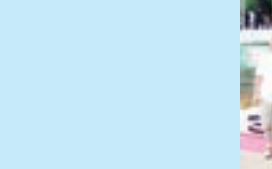
最後に、ボート部を創部当時から支えて下さっている企業・大学関係者の皆様、ボートに全力を注いでいるGM・監督・部長・副部长・コーチ、学生の生活を支えてくれる親和寮の皆様、本当にありがとうございます。私達もOBとして、少しでもサポートが出来ればと思っています。

これからも岐阜経済大学ボート部の存在感をアピールしていきますよ！

岐阜経済大学体育会ボート部の歴史



- 2000年 12月ボート部発足 在学生5名で創部
- 2001年 4月ボート部本格的活動開始 岐阜県立八百津高校から4名入学
- 2003年 11月ボート部後援会発足
- 2004年 8月第31回全日本大学選手権大会男子舵手付さへア3位(早川慎二・天野拓郎・磯部竜佑)
- 2005年 10月第32回全日本大学選手権大会男子ダブルスカル準優勝(丸濱由太郎・山本亮太)
- 2006年 6月第34回全日本選手権大会男子ダブルスカル優勝(山本亮太・嶋田盛一)
- 2007年 8月第34回全日本大学選手権大会男子舵手付きペア優勝(仲矢俊之・久司和矢・富田龍平)
- 2008年 11月海洋市ボート部合宿所完成





バドミントン部

BADMINTON

男子団体戦準優勝、男子シングルス優勝



男子団体戦準優勝

男子シングルス優勝

中島 翔太郎 (経済学科1年 富山県 富山商業高校出身)

男子ダブルス3位

稲川 正也 (スポーツ経営学科2年 岐阜県 大垣日本大学高校出身)
中島 翔太郎 (再掲)

「平成22年度岐阜県学生秋季バドミントン選手権大会」において、10月16日(土)に行われた男子団体戦で準優勝、10月31日(日)に行われた男子シングルスで優勝しました。
男子ダブルスにおいても、稲川・中島ペアが3位に入賞し、北村・島尻ペアと女子ダブルスの内生蔵・加納ペアも準決勝まで進出しました。
私達バドミントン部は、2010年度の県大会で、男子団体戦準優勝、男子シングルス優勝と成績を残し、年々、成績を上げてきています。しかし、東海大会となると、まだ良い成績を残すことができていません。今後の抱負としては、東海大会で団体戦2部昇格、個人戦ベスト8を目標にチーム一丸となって練習に取り組みんでいきたいと思っております。

「平成22年度岐阜県学生秋季バドミントン選手権大会」において、10月16日(土)に行われた男子団体戦で準優勝、10月31日(日)に行われた男子シングルスで優勝しました。
男子ダブルスにおいても、稲川・中島ペアが3位に入賞し、北村・島尻ペアと女子ダブルスの内生蔵・加納ペアも準決勝まで進出しました。

キャプテン 島尻 昌也さん

スポーツ経営学科3年 沖縄県 翔南高校出身



男子バスケットボール部

MEN'S BASKET BALL



古矢満雄監督が就任

古矢満雄先生は、保健体育の教員として岐阜県立加茂高校在職中、女子バスケットボール部を率いて11回チームを全国高校総体(インターハイ)に導き、常に上位入賞させるなど高校バスケットボール界の名監督として有名です。
定年退職後も県内の高校数校でバスケットボール部の監督を務め、無名チームを強豪に鍛え上げるなど、選手育成の手腕には定評があります。
2010年4月1日、本学の男子バスケットボール部監督に就任し、意欲的に指導をされています。

県リーグ3位、東海リーググループリーグ3位

男子バスケットボール部は、4月に古矢監督が就任されたことで、ディフェンスの強化を行い、チームとしてのスタイルが変わりました。来年は東海リーグ2部へ昇格することを目標として、今後はさらにディフェンスに対して、一人一人が高い意識を持って練習に取り組んでいきたいと思っております。

キャプテン 稲葉 寛光さん

スポーツ経営学科2年 (岐阜県 郡上北高校出身)



硬式野球部

BASE BALL

2010年度 秋季リーグ戦結果5位

成績:5勝8敗1分

ベストナイン 2塁手 高野 友裕

スポーツ経営学科2年(岐阜県 大垣西高校出身)

期待されたシーズンでありましたが、投手の二番手の故障等もあり非常に残念な結果に終わりました。

高野 友裕さん(再掲)

「個人的にはベストナイン表彰を受け嬉しいのですが、やはりチームの成績が悪く大変悔いが残るリーグ戦でした。今春にむけて全員で再スタートします。」

社会人野球へ挑む抱負と先輩から後輩へのエール

亀田 裕平さん
スポーツ経営学科4年 (滋賀県 甲西高校出身)

内定先 NTT西日本
「良き指導者・仲間・サポートして下さる方々にめぐり会えたおかげで、社会人でも野球ができる事になりました。社会人では、仕事に野球に全力投球し更に上のステージを目指し頑張ります。後輩たちには日々感謝の気持ちを忘れず岐阜経済大学に新たな歴史を刻んで欲しいです。」

次期エース候補 吉田 研斗さん

スポーツ経営学科2年(岐阜県 大垣日本大学高校出身)
チームのリーダーが卒業するのでエースとして今まで以上に自覚を持ち練習に励み、チームの真のリーダーを目指します。冬期には徹底的に下半身を強化し岐阜リーグを制覇する為の大黒柱に成長したい。

次期エース候補 比嘉 智哉さん

スポーツ経営学科1年(沖縄県 沖縄水産高校出身)
秋のシーズンは個人・チームとも決して満足のできるものではありませんでした。自分の実力不足を痛感しました。この悔しさを忘れずチームメイトから全幅の信頼を得られる投手を目指し頑張ります。



左から比嘉さん、亀田さん、吉田さん▶

「就職氷河期」に立ち向かい、 就職活動始動！ 支援イベント続々開催！



「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムの
意見交換会において本学が事例発表しました。

12月7日(火)、名古屋市内のホテル「ルプラ
王山」にて、平成22年度「新たな社会的ニ
ズに対応した学生支援プログラム」「大学教育・
学生支援推進事業」(学生/就職支援推進プロ
グラム) 意見交換会が行われました。これらの
プログラム・推進事業は、選定された取組の情



▲竹内治彦キャリア支援部長

報を共有の財産として、多くの大学に積極的に
情報提供することを目的として開催されました。
講演やパネルディスカッションの後、「大学
教育・学生支援推進事業」(学生/就職支援推進
プログラム)に選定された本学、富山大学、岡
崎女子短期大学、芝浦工業大学による事例発表
がありました。本学からは、竹内治彦キャリア
支援部長が、昨年選定されました「就活サーク
ルと学生・OBメンター育成によるキャリア教
育の充実」について発表しました。取組内容は、
就職内定を取得した学生を「メンター」という
指導者に育て、先輩が後輩を指導する体制にし
ていること、就職活動中の学生とメール相談の
やりとりをするシステム(メンティ)を作り上げ、
その記録をデータベース化することなど、
現状の課題も含め詳細に報告しました。

民間の新卒採用枠が厳しくなる中で、公務員
人気が高まりつつあります。2010年度の本
学卒業予定者で、地方公共団体へは、富山県庁
(上級総合職、尾鷲市役所、富加町役場へ3人
が合格しました。過去、本学は地方公共団体に
多くの卒業生を輩出していましたが、近年は減
少しています。そこで、キャリア支援課では、
従来からの教養試験対策講座に加え、この4月
から専門試験対策講座を新たに開講すること
しました。

この講座ではそれらの試験に向けて、専門試
験に焦点を絞った対策講義が進められます。
特に出題の中心となるのが、「憲法」「民法」「行政
法」「経済学」「政治学」「行政学」です。
試験本番を控えたこの時期は、問題演習を取
り入れた講義の実施により実践的な内容・レベ
ルへと引き上げていき、これらの重要科目を効
率的かつ重点的に学習できるようにポイントを
伝授していきます。また、さらに近年、配点比
率が高くなりつつある人物試験に向けても対策
を行います。人物試験は個別面接、集団面接、
集団討論、官庁訪問など様々な形式があるため、
何が要求されているのかを知ることが非常に大
切です。その上で面接対策・論文対策の練習を
積んでいくことが合格への近道です。
専門試験が課される市役所等の公務員試験の
合格を目指す方は、是非受講して平素の自学に
よる到達度を総点検すると共に確固たる土台を
築き上げていきましょう。

なお、事例発表後は質疑応答も行われ、選定
事業について広く情報提供を行う良い機会とな
りました。

公務員試験では、教養・専門の両分野が課さ
れる試験と、教養のみが課される試験とがあり
ます。専門試験が課されるのは、国家公務員試
験(ほぼ全般及び地方公務員(上級)等)がありま
す。例えば、岐阜県の場合では、県職員や市職
員の一部を対象になり、市職員では20の自治
体のうち大垣、岐阜、各務原、関、高山の5市
で専門試験が出題されています(平成22年度)。
専門試験の難易度は低くはないですが、教養試
験のみを課す自治体では高倍率の傾向があり、
専門試験対策まで十二分に行っておくことが、
選択肢を広げるといってもいいかもしれません。

平成23年4月より
公務員試験対策講座(専門試験対策)を開講します。

- キャリア支援課イベント
- 8月 夏季インターンシップ
 - 10月 就職活動サークル登録
金融セミナー
 - 11月 面接指導開始
模擬グループディスカッション
 - 12月 OBメンターによる業界講話
日経テスト
 - 2月 就職活動特別講座
(3日間コース)
学内企業セミナー
メイクアップ講座

**OBメンターによる業界講話
(業界研究会)を開催しました。**

12月8日(水)、本学にて業界研究会が開催され、3年次生約30名が参加しました。この研究会は、個々の企業を知る前に、業界全体を知ることが目的とし、昨年度文部科学省学生支援推進事業に採択された取組である「就活サークルと学生・OBメンター育成によるキャリア教育の充実」の一環として開催されました。

取組の目的である「先輩が後輩を指導する循環を作る」において、多数の卒業生の方からOBメンターに登録されました。その中から土井尚登さん(株式会社ニシ・スポーツ)、加藤光博さん(ヒロタ株式会社)、古田靖人さん(トヨタカローラ岐阜株式会社)、地方公務員の方を大学にお招きし、各業界の特色、仕事の中身、そして就職活動への助言をいただきました。

学生達は、身近な先輩から貴重なアドバイスをもらうことができ、最後まで真剣に聞き入っていました。



▲加藤光博さん(ヒロタ株式会社)



▲古田靖人さん
(トヨタカローラ岐阜株式会社)



土井尚登さん▶
(株式会社ニシ・スポーツ)

金融セミナーを開催しました。

キャリア支援課では、今年も就職戦線を目前に控えた3年生を対象に10月から11月にかけて金融セミナーを6回シリーズで開催し、約30名の学生が参加しました。

セミナー参加者は、金融機関を志望する学生ばかりではなく、他業種を志望する学生もいました。セミナーには、金融機関に勤務している方や本学OBで金融機関に就職した方などを講師としてお招きしました。OBによるパネルディスカッションでは、竹内治彦キャリア支援部長の指導進行のもと、どのような就職活動で内定を勝ち取ったか、大学生活をどのように充実して送ったか、また、現在の仕事でのやりがい等を質問、回答をいただく形で進みました。参加者にとっては、金融機関の仕事や役割、金融・経済用語や環境だけでなく、金融機関に実際に働いている方から直接話を聞く機会となり、何を準備して就職活動を行っていけばよいのかなど大いに参考になりました。

最終回では、名古屋証券取引所と日興コーポリアル証券名古屋支店の見学と勉強会を実施し、参加者の視野を広げました。



富山県庁(上級総合職内定)

就職活動を終えて

私は、この度、平成22年度富山県職員採用上級試験に合格し、富山県から内定を頂きました。

目標を公務員に絞って活動してきたため、常に「試験に不合格だったらどうしよう」という不安を感じながら公務員試験の勉強をしていました。絶対に合格したいという思いがあり、今振り返ると、半年以上にわたって毎日10時間以上は勉強に時間を割いていたと思います。私のこれまでの人生の中では、こんなに勉強した時期がなかったし、自分の人生がかかっているという意識もあって、肉体的にも精神的にも厳しかったのを覚えています。筆記試験に合格した後は小論文と集団討論、個人

杉森庸介さん
スポーツ経営学科4年(富山県富山東高校出身)

面接があり、こちらの対策にも力を注ぎました。特に、個人面接に関しては、筆記試験の合格発表の翌日という早い段階に、キャリア支援課で模擬面接をしていただいたおかげで、十分な対策をとって本番に挑むことができました。個人面接は事前に対策をしておかないと上手に自分をPRすることは難しく、これから就職活動をされる方は、早めに対策を練るのがよいと思います。

現在は就職難といわれていますが、就職先がゼ口になったわけではありません。キャリア支援課を有効に活用し、早めに動きだすことをおすすめします。最後になりましたが皆さんの健闘をお祈りしています。



岐阜経済大学、 岐阜大学地域科学部、 岐阜市立女子短期大学が 連携協定を結びました。

11月30日

(火)、岐阜市立
女子短期大学

において、岐阜

経済大学、岐阜大学地
域科学部、岐阜市立女
子短期大学連携協定
の調印式が開催され、
本学谷江幸雄学長、岐
阜大学口蔵幸雄地域
科学部長、岐阜市立女
子短期大学松田利之
学長により協定書が
交わされました。

この協定は、3大学が相
互に連携協力し、それぞれの特
色ある教育分野を活かしなが
ら、地域社会の発展と人材育成
に寄与することを目的としてい
ます。本年度、すでにこの3大学
が連携し、岐阜県、多治見市等
の協力を得て、岐阜市では高校
生向け、多治見市では高校生・
中学生向けの大学体験講座を
開催しています。調印式で谷江
学長は、「大学単体でなく、連携
することでそれぞれの特色を活
かすことができる」と述べ、今後
は社会人へも働きかけするなど取
組の強化を図っていきます。



◀(左から) 谷江幸雄岐阜経済大学学長、口蔵幸雄岐阜大学地域科学部長、
松田利之岐阜市立女子短期大学学長



海外教育協定大学から 留学生を迎えました。



リイゼンさん(情報メデ
ィア学科に所属)は、本学が教
育学術交流協定を結んでい
る江西師範大学からの留
学生です。2010年9月より
本学で1年間の留学生生活
を送ります。

私は、中国の江西師範大学で国際ビジネス日本語を学んでいる3年生です。日本へは、専門的な知識を身につけたい、日本の文化、経済などをより深く理解したい思いから留学を決意しました。

日本へ来る前は、人から「日本は怖い国だ」「日本人はとても親切だ」と教えられてきましたので、とても不安でしたが、実際、日本に来て見ると、すごく環境がきれいなところであり、日本人はとても親切でした。大垣市は、静かで、岐阜経済大学は、施設・設備が良く整っており、特に情報環境(コンピュータ)や図書館は整備されていると感じました。

日本では、飲食関係や、日本の企業で中国語を教える仕事を経験しています。特に中国語を教える仕事は、自分が日本語を勉強したり、日本をより知ることができるチャンスだと思い、今はやりがいを感じています。

この大学では、いろいろな資格を取得したいと思っています。日本で様々な経験をして、自分の人生が豊かになることを目標に頑張ります。私は将来、中国の大学で日本語を教える先生になるか、日本と中国との合併企業で働きたいと思っています。これから、私はどんな逆境でも、困難なことでも、嘆き、恨むのではなく、それをバネに前向きに生きていきます。焦らず、微笑を忘れずに一歩一歩頑張っていきたいと思えます。時間は元に戻らないから、今という貴重な時間を大切にしたいと思っています。

こんにちは! 高校生の皆さん

本学で学び塾を開講しました。

8月9日(月)~11日(水)にかけて、本学で「学び塾」を開講しました。「学び塾」とは、本学が高大連携事業の一環として、高校生の多様化する興味・関心に応えるため、大学の学びを体験する機会を提供するもので、2008年度から実施しています。今回は、学び塾を提供することを目指して国語、数学、英語、理科、社会の5教科8講座を開講し、岐阜・西濃地域の高校1~3年生 述べ50人が希望の講座を受講しました。

講座の中には、高校生にわかりやすい授業をこころがけるため、クイズ形式の授業を実施した講座もありました。

受講生からは、「感想文と小論文の違いをわかりやすく説明してもらえてよかった」、「外国人の先生で分かりやすかったし、話やすく楽しくかったです。またこういう企画があれば来たいです」などの感想があり、いつも高校で「勉強」とは違った学びの楽しさを味わうことのできる貴重な体験となりました。

海津明誠高校の皆さん 大垣養老高校の皆さん

10月27日(水)には、海津明誠高校で、12月10日(金)には大垣養老高校で「学び塾」を開講しました。参加対象はいずれも1年次生全員です。

海津明誠高校では、池永教授ら9名が「コミュニケーション、英会話、経済、経営、福祉、情報、スポーツ、現代社会」の講座を実施しました。大垣養老高校では、黒川教授ら6名が、ビジネス系列、会計系列、情報系列、生活福祉系列の4分野、6講座を実施しました。「コンビニビジネス」について「会計士と税理士はどっちが違う?」「ビジネスに役立つExcel」「ポジティブに生きる」と人とつながりとの関係」などのテーマに対し、受講生らは熱心に授業に取り組みました。



海津明誠
高校



大垣養老
高校





市場メカニズムと景気循環の関係を理論的に考える

経済学部

高橋 勉 教授

景気循環という

資本主義経済の不安定な性質が発生する根本的な原因を明らかにするために、資本主義経済や市場メカニズムについて、根本的に問い直すことが求められています。

みなさんご存じのように、2008年に世界的な金融危機が発生し、その後、世界経済はとて深刻な不況に陥ってしまいました。「100年に1度の津波」とも呼ばれ、その影響は現在も続いています。このことからわかるように、私たちが暮らしている資本主義経済は決して安定的なものではなく、景気循環を伴う不安定なものと言えるでしょう。では、このような資本主義経済の不安定な性質は、なぜ生まれるのでしょうか？ 私たちが暮らしている資本主義経済では、商品やお金の取引は市場を通じて行われますが、本来、市場とは、発生した不均衡を均衡化し、不安定な状態を安定化させるメカニズムを持っていると考えられてきたはずですが、ということとは、現在、市場メカニズムが十分に機能しないために、経済は不安定になっているのでは

うか？ それとも、その考えが間違っている、市場メカニズムは経済を安定化させる機能を持っていないのでしょうか？ いや、むしろ、市場メカニズムこそが不安定な性質を生み出す原因なのでは、うか？

このように、景気循環という資本主義経済の不安定な性質が発生する根本的な原因を明らかにするために、資本主義経済や市場メカニズムについて、そもそも、それはどういふものなのか、根本的に問い直すことが求められています。これが私の研究テーマです。研究者を志してから、ずっとこの問題を考えてきましたし、これからのこの問題を考えて続けるつもりです。これまでの研究成果として、2009年末に、大学の出版助成制度を利用し、『市場と恐慌―資本主義経済の安定性と不安定性―』という本を法律文化社から出版しました。



PROFILE

1966年6月、北九州市生。東筑高校(先輩には俳優の高倉健さんがいて、色々な伝説が残っていた)に通う。出身大学は一橋大学の経済学部。1・2年生の時は、障がいを持った子供たちと遊ぶボランティアサークルに、3年は大学院入試の勉強に、4年では自治会活動に情熱を燃やす。学部の3年生から大学院まで大学の寮で楽しい学生生活を送る。1997年、31歳で時に本学に採用、現在に至る。家族は、妻、娘2人(6歳、4歳)、そして、うさぎ。

ご家庭の様子を伺いました

毎日やっていることは保育園の送り迎えです。それから、夕食後は、子供と一緒に、テレビのアニメやヒーローものの時間になります。この1・2年では、シンケンジャー、ゴセイジャー、仮面ライダーダブル、仮面ライダーオーズ、プリキュア、きらりん☆レボリューション、めっちゃモテ委員長、怪物くんを見ています。「パパの方が真剣に見てるね」と言われることもあります。あとは、うさぎの世話(＝餌やり、掃除)も毎日やっています。

近著紹介

スポーツ経営学入門
―理論とケース―



大野貴司 准教授
三恵社
2010年8月

本書は、スポーツ経営学の初学者向けのテキストです。理論偏重あるいは実務偏重の類書が多い中で、本書は理論と実証の融合を実現している極めて先駆的なテキストです。本書では、経営戦略やマーケティング、組織マネジメントなど読者に各章ごとに理解して欲しい13のトピックを用意し、東北楽天やアディダス、ミスノなどの実際のスポーツ組織の事例とその経営学的な分析を交えながら、そのトピックの解説をしています。

プロスポーツクラブ経営戦略論



大野貴司 准教授
三恵社
2010年12月

本書は、経営戦略論、経営組織論の知見を用い、わが国のプロスポーツクラブの経営戦略の理論的な分析枠組の提示をすることをその課題としています。わが国におけるスポーツマネジメントという研究領域は「マネジメント」と名を冠しているにも関わらず定量的・経験論的分析がそのほとんどを占め、「経営学的」な研究がほとんどなされていません。その意味では、本書は、スポーツマネジメントの経営学的分析という未開発の領域に正面から切り込んだ意欲的かつ先駆的な著作です。

徹底検証 21世紀の全技術



猪平 進 教授
共同執筆
藤原書店
2010年10月

本書は、現場の技術者や研究者たちによって、さまざまな分野における技術の光と影をあぶり出し、これまで見過ごされてきた現代技術の本質に批判的な検証を加えたものです。住居・食・水といった生存基盤を形作る技術からクルマ・家電・医療など「生活圏」の技術に始まり、材料・エネルギー・輸送・コンピュータなどの「産業社会の技術」も、華々しい成果の裏に、数多くの問題と課題が内包されていることを明らかにしました。猪平教授は、「第4章 家庭電化はどこまで必要か」「および第7章 材料の大産生産は変えられるか」の「第3節 半導体を執筆」しています。

公開講演会「今を大切に生きる」を開催しました。

10月14日(木)、本学講堂において、株式会社free×FREE project代表取締役、NPO法人希少難病患者支援事務局(SORD)常任理事の中岡亜希氏を講師に迎え、岐阜経済大学学会主催の公開講演会を開催しました。

テーマは「今を大切に生きる」で、地域住民や、学生、約350名の参加がありました。講師の中岡氏は希少難病である「遠位型ミオパチー」の告知を受けた後、約7年間の孤独の中での闘病生活から奮起され、NPO法人SORDや株式会社free×FREE projectを設立されました。

講演では、「遠位型ミオパチー」の告知を受けた頃の状況、闘病生活、患者会の組織、こどもたちからの支援に対する感謝、難病患者のネットワークづくりなどの支援組織SORD立ち上げの経緯などが語られました。さらに「自分のためだけでなく、人のために何ができるか、他の患者の皆さんのことも考え、挑戦する人生でありたい。」などの中岡さんの言葉に、参加者も聞き入っていました。



十萬石祭りの「みこしパレード」に参加しました。

10月10日(日)、大垣藩十萬石の城主を祭る常葉神社の例祭である「十萬石祭り」が大垣市の中心市街地で開催されました。地域との連携を進める本学は、例年、企業みこしの部に参加しており、本年度は学生約120名を中心とし、役員・教職員を合わせ、総勢約135名がみこしパレードに参加しました。

本学の隊列は、岐阜経済大学の横断幕を筆頭に掲げ、次に女子学生が持つのぼり旗が林立、その後に男子学生のみこし、さらに恒例のボート部によるボートを載せたトレーラーが続きました。

来賓の前でのパフォーマンスとして、最初に島袋雄平さん(臨床福祉コミュニティ学科2年 南部商業高校出身)が口上で、本学は地域との共生を建学理念に掲げる大学であることを述べ、次に吹奏楽部が「オーシャンゼリゼ」を演奏しました。今年も学生達の元気なかけ声が大垣の街に響き渡りました。



「NPOコミュニティ論」の授業で、日置敏明郡上市長、渡辺直由美濃加茂市長を講師としてお招きしました。

11月4日(木)、25日(木)、経済学部・経営学部両学部開講科目である「NPOコミュニティ論」の授業の講師として、日置敏明郡上市長、渡辺直由美濃加茂市長をお招きしました。受講者数は約50名、この講義は地域づくり、まちづくりに関心を持つ学生が受講しており、現役の市長から直接学ぶ貴重な機会となりました。

日置市長の講義は、「『ふるさと再生・コミュニティの活性化』をどう実現するか」をテーマに、郡上市の歴史的経緯などを紹介された上で、郡上市が現在抱える人口減少などの問題をわかりやすく解説。その後、郡上市再生の基本的考え方を披露し、さらに市長が提唱されている「郡上学」について詳細な紹介がありました。

渡辺直由美濃加茂市長は、「定住自立圏が目指すもの」をテーマに総務省の取組(先行実施団体募集など)、新成長戦略「元気な日本」などを解説。定住自立圏構想の推進として中心市の都市機能と周辺市町村の環境、歴史、文化、食料生産などの機能で相互に役割分担し、定住の受皿を形成するという美濃加茂市の事例も交え、詳細な説明がありました。

なお、本学は郡上市と2008年、美濃加茂市とは2006年に地域連携協定を締結しており、その一環として実現したものです。



(左)日置敏明郡上市長
(右)渡辺直由美濃加茂市長

高山市で開催された「お助けサミット in 荘川」に本学学生が参加しました。



12月4日(土)、高山市荘川町そばの里において、高山市主催(本学受託事業)「お助けサミットin荘川」が開催され、地域連携型実践教育の一環として、本学学生(鈴木誠経済学部教授の担当科目「地域フィールドワーク」受講者等)約30名が参加しました。

“お助けサミット”とは、地域住民、行政、学生が地域づくりや地域振興について、自由に語り合う座談会のことです。経験交流・意見交換により集落の暮らしを豊かにする施策を考えることを目的としています。昨年、高山市高根町野麦のお助け小屋で開催されたことからお助けサミットと名付けられ、本年度は2回目の開催となります。最初に池上宜志さん(大学院研究科1年 揖斐高校出身)の「過疎地域と大学生を結ぶ」をはじめ、支援集落員等の方々から活動発表がありました。

その後、参加者は6つのグループに分かれ、座談会を行い、約90分間の議論終了後、それぞれのグループが「観光と地域保全の両立」など話し合った内容を発表しました。学生にとっては、住民や行政の方々から地域の問題を直に聞くことができ、貴重な学びの体験の場となりました。

地域公開シンポジウム「郷土力を活かした豊かな地域経済の形成に向けて」が開催されました。

11月27日(土)、日本地域経済学会主催、本学地域経済研究所共催の地域シンポジウム(「郷土力を活かした豊かな地域経済の形成に向けて—地方都市・大垣からの地域産業政策の提案—」)が本学講堂で開催され、大垣市長をはじめ約300名の参加がありました。

記念講演では、本学理事長の土屋嶮大垣共立銀行頭取が講師を務めました。テーマは「大垣共立銀行の歩みと大垣産業の変遷—郷土力企業を生み出す地域の力—」、大垣市の産業の変遷を揖斐川電力株式会社(現:イビデン)や紡績工場などの事例を挙げ説明、さらに大垣共立銀行が初となった「エブリデーバンキング」など各種の事業を詳しく紹介し、「お客様目線で、絶えず新しいことに挑戦する」と郷土力企業のあり方を語りました。

引き続き、シンポジウムが開催され、本学理事でもある株式会社デリカサイトFOUNDERの堀富士夫氏、客員教授の渡邊明氏、岐阜県商工労働部長の江崎禎英氏がそれぞれ報告、大垣からのグローバル時代の地域産業政策の諸条件などが提案されました。



「地域企業研究Ⅱ」において、講師として村瀬好紀十六銀行主任調査役、柳瀬靖治大垣信用金庫常勤理事、早野正人大垣共立銀行元取締役をお招きしました。

経済学部経済学科企業人育成コースの授業科目である「地域企業研究Ⅱ」において、十六銀行から村瀬好紀主任調査役、大垣信用金庫から柳瀬靖治常勤理事、早野正人大垣共立銀行元取締役(現正和商事株式会社相談役)をお招きしました。

村瀬先生は、十六銀行の成り立ちを日本の銀行制度の形成と関連付けて説明。また十六銀行の銀行名の由来や古くは銀行が企業を育ててきた経緯、3大業務である預金、貸出、為替業務についてそれぞれ時代の流れの中からどのように変わってきたかについて説明されました。

村瀬先生は、「地域金融機関のあり方」をテーマに(1)西濃

地域の産業構造と景気動向、(2)大垣信用金庫の業種別貸出構造(3)大垣信用金庫による企業再生の事例(4)大垣信用金庫によるその他の地域貢献活動(5)地域金融などについて詳細に説明され、学生達の質問にも丁寧に答えていただきました。

早野先生は、地方銀行の役割、大垣共立銀行の概要と経緯を説明され、「大垣共立銀行が、『地域に愛され、親しまれ、信頼される』ように頑張ることは、自分の住む街、家族、友人、近所の方も幸せになることにつながっていく。」と説明されました。

学生達は興味深く講師の話に深く聞き入り、特に金融機関に就職を希望する学生は思いを新たにしていました。



村瀬好紀 主任調査役(十六銀行)



早野正人 大垣共立銀行元取締役
(現正和商事株式会社相談役)



柳瀬靖治 常勤理事(大垣信用金庫)

11/30

教育実習報告会を開催しました。



11月30日(火)本年度教育実習を行った経済・経営両学部54名の学生が、3教室に分かれ、報告会を行いました。

各学生は、自分の研究授業についてのレジュメを配布し、1名約10分間の持ち時間で、2〜3週間にわたる教育実習での授業や部活動等の経験を報告しました。それぞれ実習において学んだこと、実習中の喜びや葛藤なども率直に語りました。報告後は活発な質疑応答が繰り広げられ、特に報告者が実習先で学んできた教育方法や指導先の先生から学んだことに、関心が集まっていました。

この報告会は、「教育実習 教育実習の研究 I・II」の授業として行われ、教育実習での経験をお互いに意見交換する場となり、学びの幅を広げるよい機会となりました。学生のひとりには、「実習先では伝えたいことを簡潔に相手に伝えることの難しさを痛感しました。しかしもっともっと生徒たちと一緒に過ごしたいと思えるほど充実した実習でした」と語りました。

最後に、指導教員の一人である伊藤敏雄経済学部教授から「教育実習は、学生が教師の仕事を直接体験できる唯一の機会であり、苦労することも多いが貴重な経験ができる期間です。学生達は改めて教師の仕事の大変さを実感し、また自分の力量不足を痛感したようですが、報告会での学生たちの話を聞きながら、今後とも一層努力しさらに成長していつてくれるものと確信しました。」と講評がありました。

本学で取得できる 教員免許状

【経済学科】中学(社会)、高校(地理歴史・公民・商業) 【情報メディア学科】高校(情報・商業)
【臨床福祉コミュニティ学科】中学(社会)、高校(福祉・公民) 【スポーツ経営学科】中学(保健体育)、高校(保健体育・商業)

「体育授業サポーター制度」 「課外体育サポーター制度」 中間報告会を開催しました。



10月27日(水)には「体育授業サポーター制度」、11月9日(火)には、「課外体育サポーター制度」の中間報告会を行いました。両サポーター制度は保健体育教員をめざす学生が小・中・高校の教育現場に出向き、体育の授業や部活動の補助を行うものです。今年度は、体育授業サポーターとして9名、課外体育サポーターとして13名が市内の小・中・高校に派遣され、それぞれ体育授業や部活動の指導補助を行っています。

中間報告会では、各自が行ってきた活動についての現状と問題点を一人ずつ述べ、それに対して全員が解決策を考え、忌憚のない意見を出し合いました。普段は別々の学校で活動を行っているサポーターたちが一堂に集まり意見を述べ合う報告会では、自分自身の活動に対して見直しや軌道修正ができる貴重な機会となっています。

サポーターの意見として最も多く出たのは「どうしたら子どもたちにうまく説明できるか」という悩みでした。特に初心者や体育が苦手な子どもたちに対する指導の難しさを実感したようです。教員は、専門科目の知識を深めることも必要ですが、それに加えて指導力(伝える力)を身につけることが重要です。指導担当の神谷拓経営学部准教授からは、「現場のプロから言葉(伝え方)のワザを学び取ること」、「初心者や運動が不得意な子どもにも積極的に関わり続けること」等が後半の課題として提示されました。

最終報告会は2011年1月に行います。次に一堂が会す日まで、サポーターたちは個々の課題をクリアすべく、それぞれの活動現場へと戻ってまいります。

12月22日(水)、本学講堂にて、「介護福祉士社会福祉士実習報告会」を開催しました。参加者は、臨床福祉「コミュニティ学科」の1〜4年生をはじめ、実習先でお世話になった福祉施設の方も含め約70名が参加しました。

今年度は、介護福祉士養成課程ができてから初めて卒業生を輩出する年であり、福祉士社会福祉士実習報告会に加え、介護実習の報告も加わり、介護福祉士実習報告3名、社会福祉士実習報告4名の計7名が報告しました。

報告は1名約20分間の持ち時間で、2週間から4週間にわたる福祉施設での実習において体験したこと、学んだこと、葛藤や喜びについて語りました。

「自分は、構音障害を持っている利用者者と接しました。構音障害とは、喉や舌を使って、語音を作りだすことができません、発音がうまくできない障害のことを指します。利用者は「あー、うー」としか伝えることができないため、利用者何何を伝えたいのか思索していると、利用者は動作で相手に伝えようとするなど確実に感情を返してくれるので、わからないことをそのままにするのではなく、わかるように理解する姿勢が大切であり、それが利用者との信頼関係につながっていくことを学びました」と報告した学生もいました。

各自の報告後、質疑応答があり、学生からは、報告者に対し、実習先での印象や苦労したこと、自分がこれから実習するので、注意すること、気をつけるべきこと何かなど活発な意見交換がありました。また来賓として大垣市社会福祉協議会はじめ、福祉施設の8名が参加され助言をいただきました。

最後に、佐藤八千子経済学部准教授、梅木真寿郎経済学部講師から、「学生達が真摯に利用者に向き合ってくれたことに感銘を受けました。また授業で教えている利用者本位の精神を持って実習に臨んでくれたことが嬉しかった」と講評がありました。

各学生の実習先の報告は、最終的に実習報告集(社会福祉実習は「樹(いつき)」、介護福祉実習は「輝(かがやき)')としてまとめられ、在学生の他、実習先の施設や福祉系の他大学にも配布します。

12/22

福祉実習報告会を開催しました。



教員人事

学内役職者 2010年7月8日就任
新 家 茂 図書館長(経済学部教授)
斎藤 悦子 経済学部教授
退職 2010年10月30日
斎藤 悦子 経済学部教授

12月22日(水)、本学講堂にて、「介護福祉士社会福祉士実習報告会」を開催しました。参加者は、臨床福祉「コミュニティ学科」の1〜4年生をはじめ、実習先でお世話になった福祉施設の方も含め約70名が参加しました。

今年度は、介護福祉士養成課程ができてから初めて卒業生を輩出する年であり、福祉士社会福祉士実習報告会に加え、介護実習の報告も加わり、介護福祉士実習報告3名、社会福祉士実習報告4名の計7名が報告しました。

報告は1名約20分間の持ち時間で、2週間から4週間にわたる福祉施設での実習において体験したこと、学んだこと、葛藤や喜びについて語りました。

「自分は、構音障害を持っている利用者者と接しました。構音障害とは、喉や舌を使って、語音を作りだすことができません、発音がうまくできない障害のことを指します。利用者は「あー、うー」としか伝えることができないため、利用者何何を伝えたいのか思索していると、利用者は動作で相手に伝えようとするなど確実に感情を返してくれるので、わからないことをそのままにするのではなく、わかるように理解する姿勢が大切であり、それが利用者との信頼関係につながっていくことを学びました」と報告した学生もいました。

各自の報告後、質疑応答があり、学生からは、報告者に対し、実習先での印象や苦労したこと、自分がこれから実習するので、注意すること、気をつけるべきこと何かなど活発な意見交換がありました。また来賓として大垣市社会福祉協議会はじめ、福祉施設の8名が参加され助言をいただきました。

最後に、佐藤八千子経済学部准教授、梅木真寿郎経済学部講師から、「学生達が真摯に利用者に向き合ってくれたことに感銘を受けました。また授業で教えている利用者本位の精神を持って実習に臨んでくれたことが嬉しかった」と講評がありました。

各学生の実習先の報告は、最終的に実習報告集(社会福祉実習は「樹(いつき)」、介護福祉実習は「輝(かがやき)')としてまとめられ、在学生の他、実習先の施設や福祉系の他大学にも配布します。